



2022.
9/23(金祝) ⇒ 12/4(日)

会場 / 姫路文学館 北館

開館時間 / 午前10時～午後5時(入館は4時30分まで)
 ※休館日 / 月曜日、10月11日(火)、11月4日(金)、11月24日(木)
 ※10月10日(月・祝)は開館

観覧料 / 一般700円、大学・高校生400円、中学・小学生200円
 ※身体障害者手帳、療育手帳、精神障害者保健福祉手帳の交付を受けた方
 (手帳またはマイID手帳画面をご提示ください)及び介護者1人は半額。
 ※20名以上の団体は2割引 ※常設展示も観覧可

主催 / 姫路文学館
 特別協力 / 赤穂市教育委員会市史編さん室
 後援 / 朝日新聞姫路支局、NHK神戸放送局、
 神戸新聞社、産経新聞社神戸総局、
 サンテレビジョン、播磨時報社、
 播磨リビング新聞社、
 姫路ケーブルテレビ、
 姫路シティFM21、
 毎日新聞姫路支局、
 読売新聞姫路支局、ラジオ関西


姫路文学館
 HIMEJI CITY MUSEUM OF LITERATURE
<http://www.himejibungakukan.jp/>

特別展
没後10年

西山松之助展

ある文人歴史家と江戸学の軌跡

①西山松之助 ②西山松之助画「しづらの花」(「しづらの里」挿絵) ③原稿「家元の研究」 ④「江戸名所図会」より「両国橋」(姫路市立琴丘高等学校蔵) ⑤「吉原青楼年中行事」より「仲の町花盛之図」
 ⑥西山松之助筆茶杓秋「秋の七草」 ⑦「勳進帳」弁慶を演じる西山松之助(昭和48年) ⑧西山松之助画「椿(初風)」 *④以外は赤穂市教育委員会市史編さん室蔵

江戸にあこがれ、江戸をきわめ、江戸にあそぶ

旧宿場町の赤穂郡有年村東有年に生まれた西山松之助。

西山は、後年「しづらの里」と呼んで愛した故郷で都市文化への深い関心を育み、夢中で研鑽を積んだ修禪での体験、歌舞伎への熱狂、そして島崎藤村や九鬼周造をはじめとする数々の名著との出会いによって、江戸時代の研究を決心したと言います。その後、「家元」や「家元制度」を日本独自の文化構造として解明することを手始めに、「江戸っ子」の定義の整理、歌舞伎の分析、日本茶道史における茶杓の研究のほか、江戸時代の歴史文化・文学に関する数々の業績を残して「江戸学」の基礎を作りました。

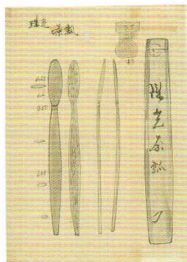
本展では、原稿や模写、研究企画ノート、家元訪問記、実測調査記録など、学者が残した研究の足跡を振り返りながら、草木のスケッチや書画、茶杓制作を楽しみ、歌舞伎を演じた文化人としての人となりを紹介し、江戸という時代と空間を自由に探究して遊んだ歴史学者の姿をご覧ください。

茶杓

2000本を超える茶杓の実測調査によって明らかにした茶杓史を紹介。生涯熱中した友人はだしの実作にもスポットをあてます。



千利休作茶杓 銘ヤハラ道怡 (湯木美術館蔵)



西山松之助画 実測調査図「珠光作茶杓 銘茶瓢」* 香雪美術館所蔵の同茶杓も展示。

歌舞伎

江戸民衆にとつての「助六」の役割とは、自ら唄い演じた歌舞伎の実演記録も展示します。

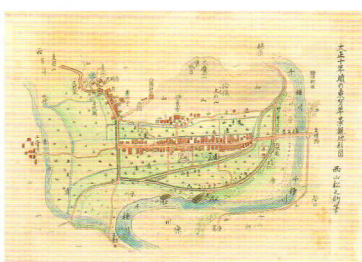


西山松之助スケッチ「御簾うちから見た助六」*

*は赤穂市教育委員会史編さん室蔵

家元研究

学問の出発点ともなった家元の研究。その足跡を展示します。



西山松之助画「大正十年頃の東有年 輿地地形図」(しづらの里) 押繪



「家元七のがたり」 産業経済新聞社、昭和31年 (姫路文学館蔵)

江戸学

「お江戸」や「江戸っ子」などのキーワードとともに江戸の町人文化を展覧します。



「江戸名所図会」より「日本橋 魚市」 (姫路市立琴丘高等学校蔵)

西山松之助 (しやまのすけ)

1912年～2012年

現・兵庫県赤穂市有年出身。姫路師範学校卒。近世日本文化史を専攻し、東京文理科大学卒業後、東京高等師範学校教授、東京教育大学教授、成城大学教授を歴任。家元制度の実証的な研究において大きな成果を残し、大都市江戸を巨視的な立場から明らかにすることを試みる「江戸学」の基礎を作った。江戸町人研究会主宰。代表作に「家元ものがたり」「家元の研究」「市川団十郎」「江戸っ子」「茶杓百選」「しづらの里―宿場町民俗誌―」「鬼のぬげがら西山松之助画文集」など多数。西山松之助画文集など多数。1985年に勲三等旭日中綬章。1986年に東京都文化賞。1992年に赤穂市名誉市民章。

イベント

①～④の会場はいずれも姫路文学館講堂(北館3階)

① 記念講演会「西山松之助先生に師事して」

- 日時/9月23日(金・祝) 午後2時～3時(開場は1時30分)
- 講師/熊倉功夫(MIHO MUSEUM館長)
- 定員/100名(無料・事前申込制) ●申込締切/9月10日(土)必着
- 申込方法/往復はがき・HP内の応募フォームで、郵便番号、住所、参加者全員の氏名、イベント名を姫路文学館まで。1件につき2名まで可。

② 朗読で西山松之助にであう

- 代表作「江戸っ子」や少年期の思い出をつづった『しづらの里』、茶杓制作について記録した『茶杓をつくる』から、西山松之助の研究と思い出の数々を朗読します。
- 日時/10月1日(土)午後1時30分～3時(開場は1時)
 - 出演/音訳ボランティアグループ サークルさえずり ●定員/100名(無料・当日先着順)

③ 展示解説会

- 日時/11月6日(日)午後1時30分～3時(開場は1時)
- 講師/担当学芸員 ●定員/100名(無料・当日先着順)

④ 琴丘高生のガイドで江戸時代にトラベル!

～『江戸名所図会』と『大和名所図会』をひもとく

- 江戸時代に旅行案内本として人気のあった「名所図会」から各地の歴史とみどころを紹介します。
- 日時/11月20日(日)午後2時～2時40分(開場は1時30分)
 - 出演/姫路市立琴丘高等学校 図書部 ●定員/100名(無料・当日先着順)

落語会「立川志ら乃・関智一とお江戸を楽しむ」

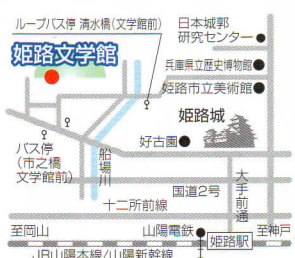
落語家の立川志ら乃さん、声優の関智一さんとともに、軽快な江戸弁と江戸っ子人情を落語で味わいます。

- 日時/10月23日(日)午後1時30分～3時15分(開場は午後0時30分) ●会場/イーグレひめじ あいめっせホール
- 出演/立川志ら乃(落語家)、のゝ家ちぢい(声優・関智一)、立川ののー(落語家) ●定員/280名(事前申込制・入金先着順)
- 参加料/1,000円(文学館友の会会員は無料) ●申込期間/9月10日(土)～10月14日(金)
- 申込方法/往復はがき・HP内の応募フォームで、郵便番号、住所、参加者全員の氏名、イベント名を姫路文学館まで。申込受付後に入金方法を案内。入金をもって申込完了となります。1件につき2名まで可。



関智一(声優)

立川志ら乃(落語家)



姫路文学館
HIMEJI CITY MUSEUM OF LITERATURE
〒670-0021 姫路市山野井町84番地
TEL.079-293-8228
http://www.himejibungakukan.jp/

企画展「杉本博司 本歌取り-日本文化の伝承と飛翔」 9月17日(土)～11月6日(日)
姫路市立美術館 ☎079-222-2288
特別展「2022年播磨工芸美術展」 9月3日(土)～10月23日(日)
秋季特別展「はしもとみお木彫展～カチの生まれるところ」 10月28日(金)～12月24日(土)
姫路市立美術館 美術工芸館 ☎079-267-0301

他館イベントのご案内
QRを読み込んで簡単アクセス
姫路文学館公式アカウントで情報やつぶやきを発信中!

アクセス
●JR・山陽電鉄姫路駅より神姫バス9・10・17・18番のりば(一部停車しない系統があります。ご確認ください)で乗車6分、「市之橋文学館前」下車、北へ徒歩4分。6番のりばは城周回観光ループ(バス乗車10分)、「清水橋(文学館前)」下車、西へ徒歩3分
●山陽自動車道姫路東IC.あるいは姫路西IC.下車約20分 ●姫路バス中地ランプ下車約15分

ご来館の際の注意 ●新型コロナウイルス感染拡大防止のため、マスク着用等にご協力ください ●展示会場の混雑を緩和するため、入場規制を行う場合があります ●駐車場の台数には限りがあります。公共交通機関のご利用にご協力ください ●状況により、変更が生じる場合がございます。最新情報を当館ホームページ等で確認の上、ご来館ください。